



杉並区教育ビジョン2022「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を目指して

副校長

10月は、「〇〇の秋」と言われることが多い月です。「読書の秋」とも言われてます。本校の図書室にはたくさんの本が並んでいます。学校司書と図書ボランティアの皆様が季節に合わせて、本の紹介をしたり、装飾してくださったり工夫を凝らした図書室は、本校の自慢の一つです。

『わすれられないおくりもの』（スーザン・バーレイ文・絵 小川仁央 評論社 1986）という絵本があります。年をとったアナグマは他の動物たちから慕われていましたが、とうとう亡くなってしまいました。他の動物たちは悲しみに暮れ、集まってはアナグマとの思い出を語り合いました。カエルは、アナグマにスケートの手ほどきを受け、滑ることができるようになるまで付き合ってもらいました。キツネは、ネクタイの結び方を教わり、今では自分で考えた結び方もあります。ウサギは、ショウガパンの作り方を、モグラは切り紙細工のやり方を教えてもらいました。楽しかった思い出を語るうちに、動物たちの悲しみは癒され、再び動物たちは元気に助け合って暮らしていく生活に戻っていくというお話です。

私たちが今現在、ここに存在するにあたって、たくさんの人の経験や力に支えられて生きてきたことでしょう。先程紹介した絵本と同様、知恵や術が世代から世代に受け継がれ、経験となって私たちの中で生きています。そして、経験を積み重ね、そこで感じたこと、考えたことを自らの中に蓄えながら、他の誰でもない、かけがえのない個人としての自分を形成していきます。そして、誰かに語り継がれていくのでしょうか。

10月はいのちの月間です。道徳地区公開講座も行われます。児童が、ゆっくり、かけがえのない自分を育てるためには、失敗や回り道、心の揺れ動きを懐深く見守っていく大人の関わり方が鍵になります。私たち教職員は、そのことを肝に命じて、児童の育成にあたります。

保護者・地域の皆様、児童がしあわせを感じることができるよう、皆様のお知恵やご経験を教えてください。未来の八成学区に生きる創り手を育みましょう。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

道徳授業地区公開講座

道徳教育推進担当

10月24日（土）に、道徳授業地区公開講座で道徳の授業と講演会を行います。道徳の授業では教材を通して自分の考えをもち、友達と考えを交流する中で、様々な見方や考え方に触れながら自分の生き方について考えを深めていきます。道徳教育で大切なことは、学校の授業だけでなく学校・地域・家庭が一体となって道徳教育を行っていくことです。保護者の方や地域の方が、子どもの頃に経験して嬉しかったこと、辛かったこと、失敗したことなどを、ぜひ子どもたちにお話しいただき、一緒に道徳について話し合う時間にしていただきたいと思います。

また、2校時は、本校スクールカウンセラーの先生に講演していただきます。たくさんの方のご参加をお待ちしています。